

# 水環境館いきものトピック Vol.6

## がいらいせいぶつ 外来生物って？

「外来生物」というとオオクチバスやブルーギルなどの生き物を想像する方が多いのではないのでしょうか。一般的にはあまり良いイメージを持たれず、悪者扱いされがちですが、実は私たちの暮らしに欠かせないものでもあるのです。

外来生物とは【自分の力で移動できる範囲の外へ、人間によって持ち込まれた生き物のこと】を言います。

いつ？どんな目的で？どうやって？などの経緯は関係なく、とにかく人が持ち込んだものが外来生物です。

### 外来生物と呼ばれるもの

- ・ 食用にするため
- ・ ペットにするため
- ・ 海外からの荷物にくっついてきた

動物園で見られるゾウやキリンなども外来生物。野外に放れているか、管理されているのかはあまり関係ない。

### 外来生物と呼ばれないもの

- ・ 温暖化の影響で少しずつ北へ移動した
- ・ 鳥が自分で飛んできた
- ・ 流木にしがみついたまま島へ流された

本来住んでいるところを遠く離れていても、人の手を借りず、自分で移動してきたのなら外来生物とは言わない。

お米が収穫できる稲は約3000年前の縄文時代後期に朝鮮半島から日本へ伝わったとされています。また、ニトリやブタなどの家畜も縄文時代以降に中国大陸から伝来したと考えられています。その他野菜などの多くも海外から伝えられたものです。つまり、スーパーで売られている食材のほとんどは、大昔に海外から持ち込まれ、今の私たちの生活を支える必需品になっているのです。「外来生物だから日本にいてはいけない」ということではありません。

しかし、中には野外に逃げ出したり、放たれたりする生き物がいます。多くの生き物は、日本の気候や環境が、もともと住んでいた地域(原産地)と違うため、日本の野外では生きられません。日本の気候が原産地と似ている場合、住みついて繁殖してしまうものもいます。こうして住みつくことを「定着」と言い、一部で定着した外来生物は日本の生態系に様々な影響を与えます。その中でも特に大きな影響を与えるものを「特定外来生物」と言い、無許可での飼育や放流が法律により禁止されています。また、外来生物は海外産だけでなく、日本産のものもいます。例えば、北海道の生き物が福岡に持ち込まれ、定着した場合は「国内外来生物」と呼ばれます。国内外来生物は、定着すると生態系を乱すこともあります。原産地では希少種となっている場合も多く、対処の方法が難しいものもあります。

### 紫川で見られる国外外来生物

スクミリンゴガイ



アメリカザリガニ



オオクチバス



コイ

ブルーギル

### 国内外来生物の例(在来は紫川にも生息)



オヤニラミ(福岡では準絶滅危惧種)  
西日本原産だが東日本でも放流



ギギ(福岡では準絶滅危惧種)  
本来いなかった筑後川で増えており、近縁種と交雑の恐れがある。

生き物は、与えられた環境で一生懸命に野生の中を生きています。決して外来生物に責任はありません。また、外来生物を日本に持ち込むのが悪いのではなく、定着するに至った経緯に問題があるのです。悪者扱いされ、一方的に駆除される外来生物は被害者という見方もできます。しかし、日本の豊かな自然を守るためには、場合によっては駆除も必要不可欠です。こうした不幸を防ぐためにできることを、みなさまぜひ考えてみてください。

